

## 問 24 (行政書士 2017 問題 58)

## 文章理解

## 空欄補充 講義問題

文中の空欄〔Ⅰ〕～〔Ⅳ〕には、それぞれあとのア～エのいずれかの文が入る。その組合せとして妥当なものはどれか。

私たちはこれまで常に「誰かが意味を与えてくれる」ことに慣れていた。子どものときは親が意味を与えてくれる。学校が意味を与えてくれる。そして就職すれば会社が意味を与えてくれる。そのように社会の側が私たちの「生きる意味」を与えてくれていた。〔Ⅰ〕。

社会が転換期を迎えるときには、評論家とかオピニオンリーダーと呼ばれる人たちが次の時代に目指すべき意味を指し示してくれてきた。そして私たちは「次の時代の潮流に乗り遅れないようにしなければ」と必死だった。〔Ⅱ〕。

かなり前から「これからはモノの時代ではなく、心の時代だ」と言われるようになった。そして新聞などの世論調査を見ても、「モノより心だ」という意識は顕著に表れてきているし、私もその方向性には共感を覚える。しかし繰り返し「心の時代」が説かれているにもかかわらず、私たちがいっこうに豊かさを感じることができないのは何故だろう。

それは「心の時代」の「心」が誰の心なのかという出発点に全く意識が払われていないからだ。「心の時代」の「心」が誰の心なのかと言われれば、それは「あなたの心」でしかありえない。「心の時代」とは私たちひとりひとりの心の満足が出発点になる時代のことなのだ。〔Ⅲ〕。

あなたの人生のQOL、クオリティー・オブ・ライフは、あなた自身が自分自身の「生きる意味」をどこに定めるかで決まってくるものだ。評論家やオピニオンリーダーの言うことを鵜呑みにしてしまうのでは、それは既にあなたの人生のQOLではなくなってしまう。この混迷する世の中で、「あなたはこう生きる!」「こうすれば成功する!」といった書物が溢れている。そして、自信のない私たちはそうした教えに頼ってしまいそうになる。〔Ⅳ〕。

(出典 上田紀行「生きる意味」から)

ア しかし、「おすがり」からは何も生まれない

イ しかし誰かが指し示す潮流にただ流されて進んでいくことから、も  
はや私たちの生き方は生まれえないのである

ウ しかし、私たちの多くはこれまでのように「誰かが私たちの心を満足  
させてくれる方法を教えてくれるだろう」とか「心の時代の上手な生き  
方を示してくれるだろう」と思ってしまうている

エ しかし、いまやその「与えられる」意味を生きても私たちに幸せは訪  
れない

	I	II	III	IV
1	ア	ウ	イ	エ
2	イ	ア	エ	ウ
3	ウ	エ	ア	イ
4	エ	イ	ウ	ア
5	エ	ウ	イ	ア

■■〔正解〕4■■

本問は、空欄補充問題のうち、文章を空欄に入れていくタイプの問題である。このような問題の場合、本文を読み進めながら、空欄の前後や空欄を含む段落の文脈を把握したうえで、空欄に入れるべき文章を確定させていくことになる。

□□Ⅰ エの文が入る

空欄Ⅰを含む段落（第1段落）の内容は、「誰かが私たちの『生きる意味』を与えてくれた」という趣旨である。空欄に入れるべき文章であるア～エは、すべて逆接の接続詞である「しかし」から始まっている。そのため、空欄Ⅰに入れるべき文章は、「(誰かが私たちに与える) 生きる意味」に関する文章であったり、第1段落の内容を否定する趣旨の文章でなければならない。この条件を満たす文章は、エの文章しかない。したがって、空欄Ⅰにはエの文が入る。

□□Ⅱ イの文が入る

空欄Ⅱを含む段落（第2段落）の内容は、「社会が転換期を迎えるとき、評論家・オピニオンリーダーが、次の時代に目指すべき意味（潮流）を指し示し、それに乗り遅れないようにしなければならない」という趣旨である。ア～エの文はすべて「しかし」で始まっていることから、空欄Ⅱに入れるべき文章は、「次の時代に目指すべき意味」に関する文章であったり、第2段落の内容を否定する趣旨の文章でなければならない。この条件を満たす文章は、イの文章しかない。したがって、空欄Ⅱにはイの文が入る。この時点で、残る選択肢が肢4のみとなる。よって、肢4が正解である。